



## 遊休施設の有効利用

私の公約でもありますが、三豊市には遊休施設がたくさんあり、その有効利用が必要です。利用には十分な検討が必要で、今回の人事異動で専門検討チームを作りました。まず三野町のふれあいパークみのの近くにある「観光館」をどう利用すべきか、モデルケースでやってみたくて、6月の1カ月間、ホームページで市民の皆さんからのご意見を募集しました。それらを参考に、広く民間に提案型利用希望を募集したいと考えています。

「観光館」はきれいな施設ですが、いまは何も使われていません。それでも、平成18年度も約126万円の予算が維持費として計上されています。遊休施設利用の1つのモデルケースとして広く民間に公募します。

\* \* \*

行政改革推進委員会がいよいよ発足しました。学識経験者や民間企業経験者、公共的団体の代表者、公募委員による12名で活動が始まります。活発な議論ができるメンバーだと期待しています。また、議会でも行財政改革調査特別委員会が発足しました。議会でもこの問題が議論されます。

三豊市の行政改革実行案の議論がいよいよ実質的に開始されます。

三豊市長 横山 忠始



5月23日、仁尾町の平石幼稚園で行われた保護者との対話集会。毎月1カ所、市内の幼稚園または保育所で行います。子育ての現状やニーズをお聞かせください



シリーズ

## なんなん？ 食育

三豊市学校給食センター

三豊市になって、市教育委員会では、「三豊市の誇り」「生きる力」を身に付ける教育の推進という教育目標を掲げました。毎日学校で提供される給食もその教育の一端を担うものとして考えられています。また、全国的に「食」そのものが子どもたちの心の育ちと不可分であるとの認識に立った「食育」という考え方も広がりつつあり、学校給食も単に栄養を摂取することから、生涯にわたる正しい食習慣の獲得等、新たな段階へと入って来ているようです。

文部科学省では「早寝早起き朝ごはん」を合言葉として、朝食を核とした良生活習慣化を進めようとしています。

このコーナーでは、市内の学校給食センター、学校に併設されている単独調理場等の紹介や各保育所・幼稚園・小中学校の食育の取り組みについてご紹介します。



平成17年「食育基本法」施行  
給食はその柱です！

豊中町学校給食センターのスタッフ

### 学校栄養士からひと言

このほど内閣府より、『毎年6月は「食育月間」、毎月19日は「食育の日』』と提唱されました。これを機会に自分や家族の「食」について、考えてみませんか？ 私たちの作る給食もそのひとつの柱と考え、いつも「学校の昼ごはんは、私たちにおまかせ！」という気持ちで、心を込めて作っています。給食や給食指導を通じてこれからも、子どもたちを支える家族、学校、地域の一員として、貢献したいと考えています。

次号では、高瀬町学校給食センターをご紹介します。

### 豊中町学校給食センター

豊中町学校給食センターは、昭和59年（1984年）3月に竣工、現在、幼稚園1園、小学校5校、中学校1校に給食を提供しており、毎日の給食数は約1,380食となっています。職員は栄養士・臨時職員等含めて16名おり、限られた時間の中で、おいしくて安心・安全な給食づくりを目指して頑張っています。

#### メニュー紹介



#### 納豆のかきあげ(5、6個分)

##### 材 料

- ・納豆 80g
- ・ちくわ 1/2本を輪切り
- ・にんじん 1/2本を千切り
- ・いんげん 3本を小口切り
- ・薄口しょうゆ 小さじ1/2
- ・みりん 小さじ1/2
- ・たまご 1/3個
- ・小麦粉 大さじ4
- ・油 適宜

ご覧のとおりネバネバ。でもおいしくて栄養満点。一度お試しを！

**作り方** 衣は薄めに溶き、材料をさっくり混ぜ合わせて揚げる。